

# 平成 26 年度事業報告

(平成 26 年 4 月 1 日－平成 27 年 3 月 31 日)

## I. 会員数 (平成 27 年 3 月 31 日)

### (1) 名誉会員

平成 26 年 3 月 31 日会員数	3 名	
名誉会員現在数	3 名	(増減 0)

### (2) 正会員

平成 26 年 3 月 31 日会員数	1,105 名	
平成 26 年度新入会員数	108 名	
平成 26 年度退会者数	104 名	
内訳	希望退会者	103 名
	物故者	1 名
正会員現在数	1,109 名	(4 名増)

### (3) 維持会員

平成 26 年 3 月 31 日維持会員数	89 社	
平成 26 年度入会社数	2 社	
平成 26 年度退会社数	3 社	
維持会員現在数	88 社	(1 社減)

## II. 機関誌送本および販売数

(1) 送本数	会員区分	送本数	
国内	名誉会員	10 冊	
	正会員	1,366 冊	
	維持会員	915 冊	
国外	正会員	8 冊	
	小計	2,299 冊	
(2) 販売数		138 冊	
(3) 贈呈数	箇所数	送本数	
国内	11	41 冊	
国外	5	20 冊	
	小計	61 冊	
合計機関誌送本数		2,498 冊	(142 冊増)
(4) その他			
機関誌を広告代理店に提供、バックナンバーとして販売。残部は在庫。			

### III. 第 61 回通常総会

開催年月日：平成 26 年 5 月 16 日

開催場所：札幌コンベンションセンター

### IV. 理事会、評議員会

#### (1) 理事会 3 回開催

- ① 第 1 回 開催年月日：平成 26 年 4 月 25 日  
開催場所：中央大学駿河台記念館
- ② 第 2 回 開催年月日：平成 26 年 11 月 21 日  
開催場所：中央大学駿河台記念館
- ③ 第 3 回 開催年月日：平成 27 年 3 月 18 日  
開催場所：書面決議

#### (2) 理事・評議員懇談会 1 回開催

開催年月日：平成 26 年 5 月 14 日

開催場所：北海道大学学術交流会館

### V. 定期学術集会の開催

第 61 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催した。

会期：平成 26 年 5 月 15 日（木）～17 日（土）

会場：札幌コンベンションセンター

会長：安居院高志（北海道大学大学院獣医学研究科）

参加者：1329 名

### VI. 定期刊行物の発行

「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、会員に希望配布した。

発行年月日	巻	号	備考
平成 26 年 4 月 1 日	63	2	
平成 26 年 5 月 1 日	63	サブプリメント号（電子配信）	
平成 26 年 7 月 1 日	63	3	
平成 26 年 10 月 1 日	63	4	
平成 27 年 1 月 1 日	64	1	

### VII. 研究の奨励、業績の表彰

#### (1) 第 26 回学会賞受賞者を表彰した。

- 1) 功労賞（3 名）

鍵山 直子 会員 (公益財団法人実験動物中央研究所)

高木 博義 会員 (日本エスエルシー株式会社)

土井 邦雄 会員 (東京大学名誉教授)

2) 安東・田嶋賞 (1名)

山村 研一 会員 (熊本大学生命資源研究・支援センター)

「遺伝子改変マウスモデルを用いたヒト疾患の病因・病態解析」

3) 奨励賞 (2名、五十音順)

金子 武人 会員 (京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設)

「フリーズドライによるマウス・ラット精子長期保存法の開発と実用化に関する研究」

小池 智也 会員 (神戸大学大学院医学研究科附属動物実験施設)

「WHLM1 ウサギへの冠攣縮誘導による急性冠症候群の誘発」

4) 2013年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (1編)

宮坂 勇輝、鈴木 沙理、大芝 泰弘、渡部 桂、相良 嘉彦、安田 俊平、  
松岡 邦枝、設楽 浩志、米川 博通、木南 凌、吉川 欣亮

Compound Heterozygosity of the Functionally Null *Cdh23<sup>v-*ngt*</sup>* and Hypomorphic *Cdh23<sup>ahl</sup>*  
Alleles Leads to Early-onset Progressive Hearing Loss in Mice

「マウスにおけるカドヘリン 23 の機能欠損 *Cdh23<sup>v-*ngt*</sup>* アレルとハイポモルフ  
*Cdh23<sup>ahl</sup>* アレルのヘテロ接合体は早発性・加齢性難聴を発症する」

(2) 2013年日本実験動物学会国際賞の表彰を行った。

2013年受賞者 (9名)

中国 : Wei Li

台湾 : Li-Tzu Yeh

インド : Prakash Geriyol

インドネシア : R.Suryo Saputro

韓国 : Dongsun Park

マレーシア : Tan Choo Hock

フィリピン : Haidee Liban

シンガポール : Yon Jin Chuah

タイ : Tullayakorn Plehgsuriyakarn

(3) 第27回学会賞受賞者を選考した。

1) 功労賞 (1名)

関口 富士男 会員 (ハムリー株式会社)

2) 安東・田嶋賞 (1名)

伊藤 守 会員 (公益財団法人実験動物中央研究所)

「ヒト化マウス創出をめざした免疫不全マウスの開発研究」

3) 奨励賞 (2名、五十音順)

香月 康宏 会員 (鳥取大学染色体工学研究センター)

「染色体工学技術を用いた新規トランスクロモソミック動物作製システム開発」

吉見 一人 会員 (京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設)

「ゲノム編集技術を用いた遺伝子改変ラットの開発研究」

4) 2014年 Experimental Animals 最優秀論文賞 (1編)

秋津 葵、角田 茂、西条 忍、岩倉洋一郎

**Rag2-deficient IL-1 Receptor Antagonist-deficient Mice Are a Novel Colitis Model in Which Innate Lymphoid Cell-derived IL-17 Is Involved in the Pathogenesis**

「新規大腸炎モデルである *Rag2<sup>-/-</sup>Il1rn<sup>-/-</sup>*マウスにおいては ILC3 細胞由来 IL-17A が病態形成に重要な役割を果たしている」

(4) 2014年日本実験動物学会国際賞の選考を行った。

2014年受賞者 (8名)

中国	: Zhenkun Li
台湾	: Tsai-Jung Lin
インドネシア	: Silvia Arin Prabandari
韓国	: Jin-Hee Seo
マレーシア	: Hasliza Abu Hassim
フィリピン	: Mikaela Angelica Villablanca
シンガポール	: Jassia Pang
タイ	: Kasem Rattanapinyopituk

## VIII. 研究・調査活動

編集委員会、学術集会委員会、財務特別委員会、国際交流委員会、広報・情報公開検討委員会、動物福祉・倫理委員会、定款・細則・規定等検討委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会、実験動物管理者研修制度ワーキンググループ、国際的規制動向収集ワーキンググループ、将来検討ワーキンググループ、第三者評価検討ワーキンググループを設置し、活動を行った。

## IX. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議、生物科学学会連合及び動物実験関係者連絡協議会の活動に協力した。
- (2) 国内の関連学会・協会との学術・情報交換を進め、その活動に協力した。
- (3) 国際実験動物科学会議 (ICLAS) 及びアジア実験動物学会連合 (AFLAS) における活動を継続した。
- (4) 米国実験動物学会 (AALAS) など、海外関連学協会との学術・情報交流を推進した。
- (5) 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターおよび日本動物実

験代替法評価センター（JaCVAM）の活動に協力した。

## X. その他

- (1) 平成 26 年度維持会員懇談会を実施した。(財務特別委員会担当)  
特別講演「体内時計を基盤にした動物実験の実施について」  
話題提供「動物実験を取り巻く施設、器材、技術の新潮流」  
平成 26 年 11 月 21 日、中央大学駿河台記念館、  
参加者：93 名（会員 77 名、非会員 16 名）
- (2) 第 3 回実験動物科学シンポジウムを開催した。(学術集会委員会担当)  
「ブタがもたらす未来医療 - 移植・再生医学への応用をめざして -」  
平成 26 年 12 月 12 日、山形テルサ・アプローズ、  
参加者：155 名（会員 57 名、非会員 98 名）
- (3) 第 61 回大会期間中に 4 つのフロンティアセミナーを開催した。(教育研修委員会担当)
  - ① 微生物モニタリング（参加者：133 名）
  - ② 遺伝子組換え動物（法規制と命名法）（参加者：101 名）
  - ③ 実験動物福祉（参加者：239 名）
  - ④ 生殖工学（参加者：103 名）参加者合計：576 名
- (4) 実験動物管理者研修会を開催した。(実験動物管理者研修制度ワーキンググループ担当)  
平成 26 年 9 月 19-20 日 京都府立医科大学図書館ホール（参加者：154 名）  
平成 27 年 3 月 2-3 日 国立感染症研究所共用第一会議室（参加者：112 名）  
参加者合計：266 名（会員 59 名、維持会員団体職員 77 名、非会員 130 名）
- (5) 第 64 回日本実験動物学会総会の大会長を選出し開催概要を決定した。  
会 期：平成 29 年 5 月下旬（予定）  
会 場：ビッグパレットふくしま（福島県郡山市）（予定）  
大会長：大和田一雄（ふくしま医療機器産業推進機構）